みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目　三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱474・528
※責任者＝文教部長　川畑信子

指名勧告を受けて
投書にこめた主婦の決意

〃石にかじりついてもさいごまで闘い抜く〃いま組合員・家族は火の玉となつた闘魂で、毎日職場で地域で、団結を固めています。勧告を受けた一組合員の主婦は、闘かう決意を、つぎのように編集部に送つてきました。

ああ、やつぱりきたなあ、と思いながら便郵配達人に「御苦労さん」といえるほどまだなぜか実感が湧かない。

午後二時から夫とともに被勧告者集会に参加する顔ぶれが今日は何となく綿密に感ぜられるのをおぼえる。楓町三十一名、私の二班でも四名である。三人に一人という割合いで楓町全体で二割というおびただしい数である。

分会長の〃しつかり団結して仲よくやることが一番大切だ〃という話があり、私も最後まで脱落せずにお互い同士のみぞをつくらぬように気をつけ、今までと変らぬ気持で一しょに闘いぬこうと思つた。勧告が来た人と来なかつた人とがいがみあつてはいけない。怒りは会社に向けるべきである。大きな気持で共に闘つている事を忘れてはいけないと思う。

会社は活動家のクビ切りをネラい、組合をつぶそうとしている事が勧告の実態ではつきり分る。

私は勧告を受けた者の妻として又三池主婦会の一員であるというねばり強い誇りと、勇気を失わず苦しみに耐えていく覚悟でいる。

夕方上の女の子供が学校から帰つてくるなり「お母さん只今……来たね」といつたのには、意外な気がした。やはり子供心にも心配していて呉れたのかと心強くなりわかりやすく話をしてきかせた。

夜、二、三班の座談会があり、お互いに激励し合つた。「来た人来なかつた人と区別をつけて話す事は一番いけない。いままでと同じく一緒に頑張りましょうね」とみな口々にいわれるのを聞くと、本当に組織の力だなとうれしくて胸にグーツとくるのをおぼえる。

子供たちに心配をかけぬためにも大人たちは言葉に気をつけることや、一万円生活でやつていくのでよその台所のかげ口などいわないことにしましょうと、暖かい思いやりもあり安心して闘えると自信がわいてくる。

その翌日は、主婦会役員や会員の方々が一軒一軒激励にまわられた「しつかりやりましょう」「頑張つて下さい」と口ぐちにいつて下さると涙がでそうで、ほんとうに「最後までやります」といわずにはいられない。

自分一人のことを考えていると何とかぐちもでて淋しくもなるがこの〃勧告〃をはねかえして闘うのだ、団結してみんなと一緒に行動し、労働歌をうたい闘魂をもやす事だと胸にちかう。

一二三日の闘いに最後まで拒否して闘い、勝利の喜びでつづられた詩の一行一行が何と身近かに感じられることか。それが私の気持にたしかな実感として感ぜられるのは勧告を受けた者の妻として、真剣になつているからだろうか。

あの時から私たち主婦も前進してきた。あの時よりももう目も開けて来たし、自信もある。会社の野望も非情な仕打ちも粉砕する力が出来ている。最後まで闘う決意は出来た。何かすつぱだかになつた気持で何でも来い、という気持と闘志でいつぱいだ。

私たちも共に闘います
―佐賀炭婦協からも激励―

十六日、佐賀炭婦協から片岡会長はじめ執行委員六名が三池を訪れ、三川鉱繰込場や大島社宅の闘争本部を激励したあと、各支部をまわりあいさつをおくりました。

片岡会長は

三池のお友達が、夫とともに闘いに立ちあがつておられることを知つて、一日も早くかけつけて、激励したいと思つていました。

昨年杵島が長い闘いを続けたとき、三池のみなさんはじめ、多くの仲間の激励をうけました。いま、三池の皆さんが闘つておられるのは全労働者の闘いであると理解しています。私達佐賀県の炭鉱主婦も三池のみなさんと共に闘います

と力強く語つていました。こうして、私たちの闘いは広くたくさんの仲間たちに理解されて、みんなの闘争として発展しているのです

東圧主婦会と交流

十二月十六、七日の二日間、東圧労組からの要請で東圧主婦会との座談会に、三池主婦会の本部役員支部長が参加しました。三鉱労組の闘いの経過、主婦会の活動や一万円生活についての実態をうつたえ、協力をもとめました座談の中で、会社側の悪質なデマ宣伝がみんなうそであり、私たちの闘いは正しいのだ、ということを理解してもらいました。

そして〃同じ労働者の妻であり母親としてともに闘いましょう〃とあたたかい激励を受けました。

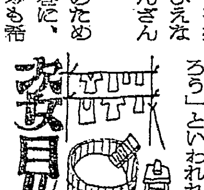
鉢巻

戦時中、女学生であつた私たちは、おさげ髪に絣のモンペ白い鉢巻をしめて、か細い腕にペンならぬドリルやハンマーを持たされ、B29の爆音におびえながら、動員学徒としてさんざん働かされました。

軍国主義者や戦争屋共のために歎されて結んだ白い鉢巻に、楽しいはずの乙女時代の夢も希望も奪われてしまつたのでした

そして十数年過ぎたいま、妻となり母となつて、再び白い鉢巻をしめる身になりましたが、いまの鉢巻は戦争屋、資本家共を相手として自分の生活と権利を守り、みんなの幸せを築くための私たちの団結の鉢巻です。私自身のための鉢巻です。

先日から幹部の方が「デモの時はもちろん家にいる時、外に出る時いつも鉢巻をしめて頑張ろう」といわれましたが、とてもいいことだと思います



なぜならば、私たちも人間ですからいくらストの中でも、もつと生活を切りつめてと思い、いつも心の中に鉢巻をしめているつもりでも、この鉢巻はやゝもするとゆるみがちになり思わずあまり必要でない品に手をだしてしまいがちですがこんな時に本当に白い鉢巻をしてめいると、この鉢巻がじつと私の手をおさえゆるんだ心に「一万円生活だよお前を見ているよもつとしつかり！」とさゝやきはげましてくれます。

平和の鳩を記した三池主婦会の伝統と誇りに輝く私たちの鉢巻を、今日もしつかり締めて最後まで頑張りましょう。しつかり結んだ鉢巻から強い団結の力が生れ、私たちの勝利の日がくることを信じます。皆さん鉢巻をしめましょう。しつかりと！。

宮浦支部　月見丘分会
（一主婦）

仲間よかえれ！
製作支部　森川えつ子

あまい言葉にのせられて、仲間をうら切り、組織をくずした人達よ。

それで、あなた達は、一体何を得たと思つているのですか。自分が思つていることも、自分の信念さえも、正直に口にだしていわれない、職制のカンシの目の光る中で、働らかねばならないのではないですか。

労働強化、低賃金、首切り企業整備の嵐、炭鉱労働者の身辺では、いま、あらしが空をふさぎ、地をふるわせ、木々もゆさぶつている。

今日、この現実から、あなたたちは逃げようとしている。耳をふさぎ、目をおおい、口をとじて逃げている。

レイコク無ざんな資本攻勢、彼等は雑草の一本も残さないのだ 私達には〃安全地帯〃はない。うまく逃げたと思つても、それは、台風の目なのだ。やつてくる、かならずやつてくる。あなた達の幸福な家庭を根こそぎにする、おそろしい、すざましい嵐がふきつけてくる。

三池の労働者は立ち上つた。三池の主婦達の胸は、いかりに燃えている。三万五千の大牟田の労働者と、八万五千の主婦と子供達は、生命をかけている。資本家は、金儲けのための闘いだが、私たちは、この闘いに生命をかけている。まける筈はない。ガツチリと、テコでもうごかぬ、スクラムを組んでいる。

三作千四百名の同志よ、四千の主婦と子供よ、このスクラムの中に、一日も早く帰つて来て下さい。所詮、あなた達の味方は私達だけしかない。

オレ達の生活はオレ達で守る!!と無雑作に云いすてゝ三鉱労働者のハチマキをしめて、三鉱労組の仲間達の中に出かけて行く夫を見送つて、私も無心にハチマキをしめる。生れて初めて、結ぶハチマキなのだが――。

私には、とても力強く感じる、二十二人の夫達の血、イヤ、一万五千三鉱の同志、二十万全炭労の、三千五百万全国労働者の生活をまもる情熱が、息苦しくなるばかりに伝わつて来る。

三作労働者のみなさん、夫と親しかつたAさん、Bさん、どんなに逃げても、あなた達は労働者であることから、逃げうせるものではない。労働者のしあわせは、労働者みんなで築くよりほかない。逃げないで、もう一度、しあわせの為に闘う仲間のスクラムに帰つてください。

怒りの誓い
三川　西川重生

私に「十一月十九日けい肺の特別検診を三川鉱講堂で行います」との通知がきたのは十一月の中頃だつた。

その検診も知らされず、十二月四日私には指名退職勧告状がきた十二月十一日には、指名解雇状をつきつけられた。

しかも私はカリエスでコルセツトをつけている病弱の身体。体が強い時はさんざん仕事をさせておきながら、今日は私の首をきる。

私は郵送されたクビ切り状の受取りの判を押す時は泣かなかつたしかし夜半使い果したボロ布のように私を葬ろうとする奴等を思つたとき、口惜し涙がながれた。怒りのあつい涙だつた。

人間の首を大根でも切るように切りすてる奴等がいる資本主義社会。それを断じて私は許すことができない。

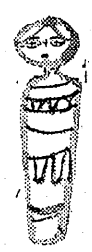
牛馬のように働かせて、病気すればチヨン。労働強化に抗議すればチヨン。生産阻害者としてチヨン。

私達は奴等の富を増すために生れてきたのでない。

人間の魂は、権力にも金力にも侵されるものではない。私達の生活と権利を守るために、奴等を今こそ打ち倒さねばならない。権力にたいする無抵抗と恐怖心は奴等を増長させるだけ。

私は最後まで、奴等の息の根をとめるまで闘いを止めない。

首切りはいやです
児童つづり方
五年　谷端澄子



私のお父さんは、私が生れる前から、労働組合の仕事をしておられます。そして三池炭鉱で働いている人の幸せのために、いつしようけんめいに働いておられます。

お父さんと話す事ができるのは、朝のちよつとの時間です。けれど、私達二人の姉妹にとつて、とてもやさしい、いいお父さんです。こんないいお父さんを、会社は首にするというのです。私はあまりひどい会社だと思います。

このほかに、お父さんのようにいつしようけんめい炭鉱のために働いておられる人も、何人も、何人も、首を切るというのです。

お母さん達は夏ごろから、首切り反対のためにけつき大会やデモに、よく行かれました。その時は、私達二人でなんでもお手伝いして勉強していました。

けれど会社から、十一月四日と十一日に、お父さんを首切るという手紙がきました。お母さんは四日の朝「今日は会社から、首切りの手紙がうちにもきますよ。でも、今日手紙がくるところは、全部いつしようけんめい炭鉱のために働いた人達にくるのだから、あなた達は決してさみしがらなくていいよ。ほこりと思いなさい」といわれました。私は、ほんとうに、そうだと思います。

それから、私のうちにたくさんの人がげきれいにこられます。みんな「がんばりましよう。絶対に勝ちますよ」と、言つて帰られます。その時はとてもうれしくてたまりません。

妹はすぐ「首切るやつの首を切れ」「一人の首切りはそれだけ大牟田をさびれさせる」といいます。私もほんとうに会社の人がやめたらいいと思います。

学校に行く時帰る時、諏訪橋を通る時、毎日毎日、首切るやつの首を切れと書いてあるのを見ます。その時は、会社の人がにくくてにくくて、はがゆくてたまりません。お母さんの話やほかの人が話されたことをまとめて考えると、やつぱり心をあわせるということが一番大切だと思いました。

お父さんもお母さんも「あなたたちはちつとも心配しなくてよい、組合は必ず勝つからいつしようけんめい勉強しなさい」といわれますので、私は第一番に病気にならないようにして勉強しています。そして、早くお父さんたちの首切りが勝つように祈つています。

もうすぐお正月ですが、私はもちもいらないなんにもほしくないのです。ただ、お父さんの首切りが勝つてから、一しよにお祝ができるのを楽しみにまつています。